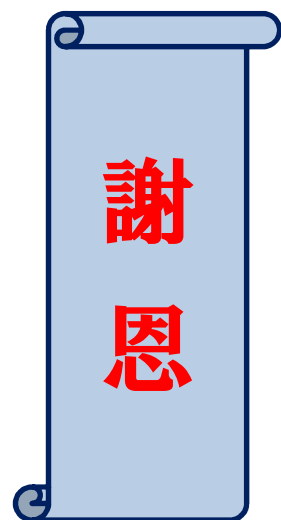


YouTube

【宅建動画の渋谷会】佐伯竜

# 2024 年 宅建 統計対策



# 渋谷会

統計については、出題されるポイントがあります。

そのポイントを押さえておくことで、1点を取ることがより確実になります。

数字を確認した上で、訊かれるポイントを押さえましょう。

また「予想問題」も上げておきますので、典型的な問題であればこれで1点取れます。

ぜひ統計でアドバンテージを取ってください。

全国のみなさまの合格を祈念しております。

担当講師 佐伯

# (第1項) 必ず覚える 比較的よく出て、やさしい

## 1. 売買による土地所有権移転登記の件数(出題 65% 11/17)★★

R04,R03-10,R02-10,H30,29,27,26,25,23,22 ※データは H21 以降(以下、  
同じ)

- ① 土地取引について、売買による所有権の移転登記の件数でその動向をみると、令和 5 年の全国の土地取引件数は約 129 万件となり、**ほぼ横ばい**で推移している。

## 2. 不動産業の売上高(出題 18% 3/17)☆H30,27,26

- ① 令和 4 年度の不動産業の売上高は、46 兆 2,682 億円で、前年の増加から再びの**減少**に転じた。

## 3. 不動産業の経常利益(出題 35% 6/17)★★R01,H29,25,23,22,21

- ① 令和 4 年度の不動産業の経常利益は、5 兆 9,392 億円で、2 年連続の増加から**減少**に転じた。  
② 令和 4 年度の不動産業の経常利益は、5 兆 9,392 億円で、対前年度比 2.0%**減**となった。

## 4. 不動産業の売上高経常利益率(出題 18% 3/17)☆R05,02-12,02-10

- ① 令和 4 年度の不動産業の売上高経常利益率は、**12.8%**で、前年度(12.5%)に比べ**増加**した。  
※ なお、売上高営業利益率は**減少**した

## 5. 宅地建物取引業者数(出題 41% 7/17)★★R05,03-12,R02-12,R01,H28,24,21

- ① 令和 5 年 3 月末(令和 4 年度末)において、宅地建物取引業者数は、**129,604 業者**となっており、**9 年連続で増加**となった。

**《予想問題1》**

令和6年版土地白書によれば、土地取引について、売買による所有権の移転登記の件数でその動向を見ると、令和5年の全国の土地取引件数は約129万件となり、2年連続で増加している。

誤り ほぼ横ばいで推移している

**《予想問題2》**

年次別法人企業統計調査によれば、令和4年度の不動産業の売上高は、46兆2,682億円で、2年連続で増加している。

誤り 前年の増加から再びの減少

**《予想問題3》**

年次別法人企業統計調査によれば、令和4年度における不動産業の経常利益は5兆9,392億円となっており、対前年度比2.0%増となった。

誤り 2.0%減

**《予想問題4》**

年次別法人企業統計調査によれば、令和4年度における不動産業の売上高経常利益率は、12.8%で、前年度に比べ減少した。

誤り 前年度(12.5%)に比べ増加した

**《予想問題5》**

宅地建物取引業法の施行状況調査(令和5年9月公表)によれば、令和5年3月末時点の宅地建物取引業者数は、129,604業者となっており、前年3月末時点に比べ減少した。

誤り 129,604業者で、増加した(9年連続で増加)

## (第2項) 新設住宅着工戸数(年統計)

(出題 83% 14/17)★★★R04,R03-10,R02-12,R02-10,R01,H30~22

出題可能性は高い きっちり覚える

### 1. 新設住宅着工戸数

① 令和5年の新設住宅着工戸数は、819,623戸で、前年比では4.6%減となり、3年ぶりの減少となった。

### 2. 持家

① 224,352戸、前年比11.4%減、2年連続の減少

### 3. 貸家

① 343,894戸、前年比0.3%減、3年ぶりの減少

### 4. 分譲住宅

① 246,299戸、前年比3.6%減、3年ぶりの減少

② マンション 107,879戸、前年比0.3%減、昨年の増加から再びの減少

③ 一戸建住宅 137,286戸、前年比6.0%減、3年ぶりの減少

**《予想問題6》**

建築着工統計調査報告によれば、令和5年の新設住宅着工戸数は約82万戸で、対前年比では約4.6%増となり、3年連続の増加となった。

誤り 4.6%減となり、3年ぶりの減少となった。

**《予想問題7》**

建築着工統計調査報告によれば、令和5年の新設住宅着工戸数は、持家は2年連続で減少したが、分譲住宅と貸家はともに3年連続で増加した。

誤り 新設住宅着工戸数は対前年比4.6%減で3年ぶりの減少。持家は2年連続の減少。貸家は3年ぶりの減少。分譲住宅は3年ぶりの減少。

**《令和5年 新設住宅着工戸数》3年ぶりの減少**

項目	増減
総計	減少
持家	減少
貸家	減少
分譲住宅	減少
(マンション)	減少
(一戸建住宅)	減少

## (第3項) 地価公示

(出題 89% 15/17)★★★R05,04,R03-12,R03-10,R02-10~H28,26~21

### 毎年訊かれる 言葉と数字を一致させる

#### (令和6年 地価公示結果の概要)

令和5年1月以降の1年間の地価について

- ① 全国平均では、全用途平均・住宅地・商業地のいずれも3年連続で上昇し、上昇率が拡大した。
- ② 三大都市圏平均では、全用途平均・住宅地・商業地のいずれも3年連続で上昇し、上昇率が拡大した。
- ③ 地方圏平均では、全用途平均・住宅地・商業地のいずれも3年連続で上昇した。全用途平均・商業地は上昇率が拡大し、住宅地は前年と同じ上昇率となった。
- ④ 全国の地価は、景気が緩やかに回復している中、地域や用途により差があるものの、三大都市圏・地方圏ともに上昇が継続するとともに、三大都市圏では上昇率が拡大し、地方圏でも上昇率が拡大傾向となるなど、上昇基調を強めている。

	全用途		住宅地		商業地	
	R5 公示	R6 公示	R5 公示	R6 公示	R5 公示	R6 公示
全国	1.6	2.3	1.4	2.0	1.8	3.1
三大都市圏	2.1	3.5	1.7	2.8	2.9	5.2
地方圏	1.2	1.3	1.2	1.2	1.0	1.5

**《予想問題8》**

令和6年地価公示によれば、令和5年1月以降の1年間の地価は、全国平均では、全用途平均・住宅地ともに3年ぶりの下落となった。

誤り 全国平均では、全用途平均・住宅地で、3年連続で上昇し、上昇率が拡大した。

**《予想問題9》**

令和6年地価公示によれば、令和5年1月以降の1年間の地価変動率は、商業地の全国平均では、3年ぶりに下落した。

誤り 全国平均では、商業地は3年連続で上昇し、上昇率が拡大した。

**《予想問題10》**

令和6年地価公示によれば、令和5年1月以降の1年間の住宅地の地価は、三大都市圏平均では下落したものの、それ以外の地方圏平均では上昇した。

誤り 三大都市圏平均では、住宅地は3年連続で上昇し、上昇率が拡大した。地方圏平均では、住宅地は3年連続で上昇し、前年と同じ上昇率となった。

**《予想問題11》**

令和6年地価公示によれば、全国の地価は、景気が緩やかに回復している中、三大都市圏では上昇が継続しているものの、地方圏では下落傾向が継続している。

誤り 全国の地価は、景気が緩やかに回復している中、地域や用途により差があるものの、三大都市圏・地方圏ともに上昇が継続するとともに、三大都市圏では上昇率が拡大し、地方圏でも上昇率が拡大傾向となるなど、上昇基調を強めている。

**【宅建動画の渋谷会】**

<https://shibuyakai.com/>

**《WEB ストリーミング講座》★直前期おすすめ★**

★令和6年版 宅建直前総まとめ講座 ～テーマ50個を最終確認～（全7回 約14時間）

[https://shibuyakai.com/takken/2024\\_soumatome.html](https://shibuyakai.com/takken/2024_soumatome.html)